大笠建盛会総会

交流と信頼関係を

大笠建盛会（森千秋会長）は14日、南さつま市の㈱森組大会議室で18年度総会を開き、新年度の事業計画などを決めた。

新年度の事業計画を決めた総会＝南さつま市の森組大会議室で

冒頭、森会長が「財政面の改善を図るために、公共事業の今後はさらに厳しい状況が予想される。今まで培ってきた技術と技能、長年にわたり実施してきた各種のボランティア活動で得た地域との交流と信頼関係を胸に、これからも地域のために一致協力していこう」と挨拶。続いて、三和建設㈱の中本拓治社長を議長に、17年度事業報告並びに収支決算報告と、18年度収支予算案並びに事業計画案が審議され、執行部原案通り可決承認された。

18年度の事業計画は、①春の全国交通安全運動への取り組み②夏季ボランティア作業③年末安全パトロール④年末年始交通事故防止運動への取り組み⑤冬季ボランティア作業－など。また、今回はスポーツ少年団事業の一環として、大浦少女バレーボールスポーツ少年団と、笠沙空手道スポーツ少年団の2団体に対し強化支援金の贈呈が行われ、森会長から各団の責任者らへ支援金が手渡された。

来賓の本坊輝雄県議から「地元の子供たちに夢を託そうという取り組みは、子供たちに大きな希望を与えると思う。われわれも一体性のある地域づくりを、皆さまとともに取り組んでいきたいと思う」と同会の取り組みに期待を寄せた。

桶寄川排水機場整備 安全祈願祭

念願の排水機場着工へ

桶寄川排水機場整備工事の安全祈願祭が17日、湧水町の現地で発注者、

安全を祈願して玉ぐしを捧げる米満町長＝湧水町の現地で

無災害を祈願した。なお、工事期間中の無事故を託そうという取り組みは、子供たちに大きな希望を与えると思う。われわれも一体性のある地域づくりを、皆さまとともに取り組んでいきたいと思う」と同会の取り組みに期待を寄せた。

隼人町建築同好会総会

会員の加入促進を

隼人町建築同好会（佐々木邦広会長）は14日、霧島市の日当山温泉ホテルのきで第33回通常総会を開き、技術講習会の開催などを柱とする新年度事業計画を決めた。

総会の冒頭、佐々木会長は「合併に伴う効果もあとしばらくはかかると思われるが、日当山小学校の改築工事等の発注も見込まれていることから、地元業者が頑張って受注できるように努力していきたい。また、会員の加入促進についても多くの方々が参加していただけるように会の活性化を図っていきたい」などと挨拶。

地元業者の受注を――と挨拶する佐々木会長＝霧島市の日当山温泉ホテルのきで

引き続き、原口修二氏（原口ルーフ㈲）を議長に選出して議事に入り、17年度事業・収支決算報告、18年度事業計画・収支予算案などを慎重に審議、執行部原案通りすべて可決承認した。

新年度事業計画は、①建築が林建設、電気施設設備が九電工、ポンプ施設整備を石垣がそれぞれ担当する。

同工事は、桶寄川にかかわる住宅・農地等の浸水被害を軽減・防止を目的に整備を図る。施設は、敷地約1000㎡にRC造平屋建て約55㎡の施設を建設し、処理能力毎秒0・8t×19年2月末の予定。

祈願祭には、米満重満湧水町長をはじめ、施工業者、住民代表ら約20人が出席。安全を祈願して出席者らが玉ぐしを捧げるなど神事を行った。米満町長は「平成9年にこの地区をはじめたくさんの家屋が浸水被害を受けた。今回やっと地元の念願の工事がいよいよスタートする。工事にはお互いが協力していきながら、けがのないよう十分気をつけ、工事の無事完成を願っております」と挨拶した。

管内建設業者と基本協定

災害時での連帯を

大隅河川国道

国土交通省大隅河川国道事務所（長井義樹所長）は14日、肝付町の同事務所で、台風シーズンを控え災害時の早急な対応ができるために管内近隣の建設業者と応急対策の基本協定を結び、災害時の応急体制を整えた。

協定説明では、河川・砂防・道路各担当課長が昨年9月に発生した台風14号の災害状況を説明、災害個所と復旧工事に必要な機械や機材等の所在確認の必要性や二次災害防止を想定した遠隔装置ロボットと照明車などの装備を紹介し、台風14号被害の短期間復旧成果に感謝してさらなる体制づくりを訴えた。協定締結確認が行われた後、参加した40業者（河川事業19社、砂防事業者5社、道路事業社16社）が基本協定を結んだ。

応急対策の基本協定書に調印する長井所長（右）＝肝付町の大隅河

最後に、長井所長が「昨年の台風災害時では、皆さんの協力で早期復旧ができ感謝します。締結した40社と協力して災害技術講習会等の実施②各種親睦行事の開催－などとなっている。

鈴木宗男氏が講演会

苦労話など力強く語る

若大将会

地元建設業の2代目で組織する若大将会（牧祐一会長）は14日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで衆議院議員の鈴木宗男氏を招き、講演会を開いた。

鈴木氏は、会員ら約60人を前に政局などについて私見を交えながら力強く講演した。

当日は、講演を前に鈴木氏が出席者一人ひとりと握手を交わしながら挨拶を行った。引き続き、鈴木氏の紹介のあと講演が始まった。

その中で鈴木氏は、実体験の苦労話などを語り、「人生で壁や挫折感があっても明るく明確な目標があれば克服できる。辛いときは、私自身と比較してみてください」と出席者を勇気付ける講演を随所に見せた。出席者らは、力強い講演内容を熱心に聴き入っていた。

力強く講演する鈴木氏＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

同講演会は、前会長の水口隆浩さんが10年程前、鈴木氏の政治への情熱に感銘を受け、それ以来鈴木氏への支援をしてきたが、今回その思いがかない講演が実現した。

また、講演終了後は、鈴木氏を囲んで懇親会も開かれ、有意義なひと時を過ごした。

「春祭り2006」で苗木配布

緑の大切さ知って

南薩造園建設業協会

南薩造園建設業協会（中島辰雄会長）は16日、南さつま市の県立吹上浜海浜公園で、県地域振興公社が主催した「春祭り2006」で、恒例の苗の販売コーナーを設営。苗木を求める多くの来場者でにぎわった。

前日の雨も上がり、快晴のもとで行われた同まつり会場には、フリーマーケットなどが所狭しと場内を埋め尽くし、朝から大勢の家族連れが訪れた。また、同協会も会場入り口付近に花の苗木無料配布コーナーを設営して、マリーゴールド、ガ計300本の苗木を準備して、苗木を求めて並ぶ来園者一人ひとりに丁寧に手渡す会員らの姿が見られ、準備された苗木は瞬く間に無くなった。

苗木を目当てに行列をつくる来園者＝南さつま市の県立吹上浜海

苗木の配布を終えた後、管理棟の会議室に場所を移して行われた反省会で、中島会長は「きょうは、晴天にも恵まれて大勢の来園者に喜んでもらえることができた。地域の人たちに、緑の大切さを知ってもらうことが、我々造園業者の務め。地域交流のあり方にも、さまざまな取り組み方があると思う。これからも皆の知恵をいただきながら、会の活動を盛り上げていきたい」と策をお願いする」と挨拶した。その後、映像で昨年の災害状況を振り返った。